IS-22
リファレンスガイド

このたびは、キヤノン製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
このガイドでは、お使いのプリンタをスキャナに変身させる「カラーイメージスキャナカートリッジ」（別売）の使いかたについて、詳しく説明します。

はじめて、このガイドをご覧になる方は、
このボタンをクリックしてください。

Ver.1.0

はじめてスキャナカートリッジをお使いになる方へ

このガイドでは、スキャナカートリッジ、およびスキャナカートリッジを利用するためのソフトウェア「IS Scan Plus」「IS Scan」について説明します。

はじめてスキャナカートリッジをお使いになる方は、このガイドの第1章から第2章、第3章...と順番に読み進めてください。スキャナカートリッジや原稿、ソフトウェアなどに関する大切なことがらを説明した後、実際の読み取り操作の説明に入ります。
読み取り作業をはじめるまでの操作は、大まかに次のような流れになります。

スキャナカートリッジを取り付けます。

IS Scan Plus を起動します。
・ または、アプリケーションソフトから、IS Scan を呼び出します。

白基準補正を実行します。
・ はじめてのときに行う作業です。

原稿をスキャニングホルダにはさんで、プリンタにセットします。

読み取りを実行します。

次のページでは、ボタンの使いかたを説明します。

メモ

・ *すでにIS Scan Plus、IS Scanに慣れている方は、第1章、第2章を読み飛ばしていただいてかまいません。*

このガイドの使いかた

ここでは、このガイドのボタンの操作方法などについて説明します。

● このガイドのボタンについて

このガイドの各ページの下の方には、ボタンが並んでいます。このボタンを活用しながら、上手にガイドをご利用ください。

● このガイドの画面例について

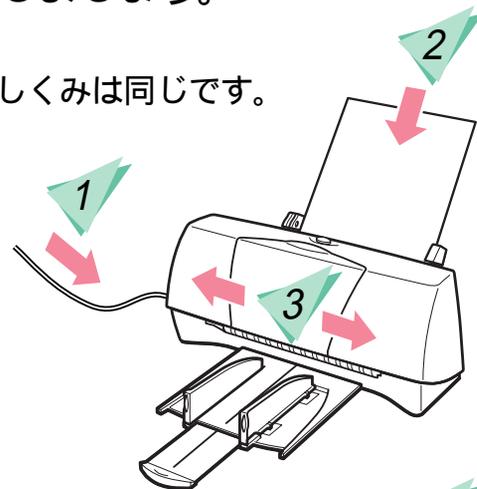
このガイドに掲載している画面例は、モニタ上でも印刷しても、ある程度見えるように設定してあります。このため、いずれの場合にも、多少ぼけた感じになります。（データの異常やプリンタの故障、設定ミスなどではありません）

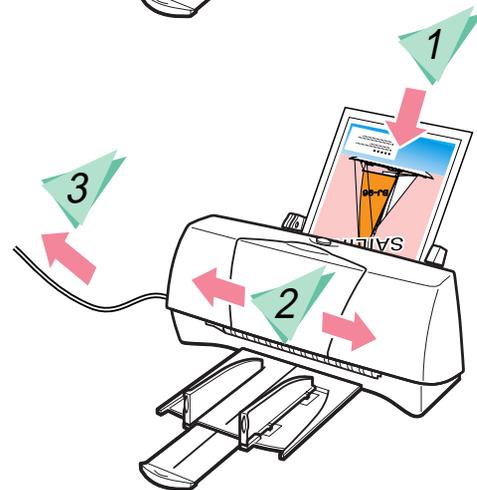
目次（クリックすると、そのページにジャンプします）

スキャナのしくみ

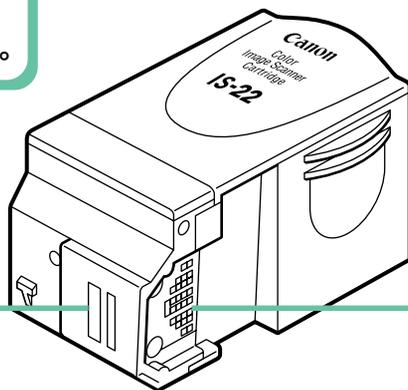
はじめに、プリンタがスキャナに変身するしくみを簡単に紹介しましょう。

通常、プリンタは次のように印刷を行います。
お使いのプリンタと形が違うかもしれませんが、気にしないでください。しくみは同じです。

1. コンピュータからデータが送られる。
2. 少しずつ用紙を進める。
3. BJ カートリッジを左右に動かしながら印刷する。

プリンタをスキャナとして使うときは、次のように読み取りを行います。

1. 少しずつ原稿を進める。
2. スキャナカートリッジを左右に動かしながら原稿を読み取る。
3. コンピュータにデータを送る。

いかがですか？プリンタの機構をうまく利用して、スキャナ機能を実現していることがわかりますね。

スキャナカートリッジの各部の名称とはたらき

スキャナカートリッジをじっくり見てみましょう。

お願い

- *スキャナカートリッジの「読み取り部」「電極部（基板）」には、触れないようにしてください。汚れや静電気で正しく読み取ることができなくなることがあります。*
- *「読み取り部」のレンズをクリーニングするときは、柔らかい布に水を含ませ、よく絞った後、やさしく拭いてください。その後、乾いた柔らかい布で水分を拭き取ってください。*

スキャナカートリッジの取り付けと取り外し

ここでは、スキャナカートリッジの取り付け、取り外しに関する大切なことを説明します。

● スキャナカートリッジの取り付け、取り外し

スキャナカートリッジの取り付け、取り外しの方法は、プリンタによって異なります。プリンタの説明書（CD-ROMに入っている場合もあります）のスキャナカートリッジについて説明しているページをご覧ください。

● カートリッジを交換するときに気をつけてほしいこと

BJカートリッジとスキャナカートリッジを交換するとき、次のような点に気をつけてください。

注意

- *印刷直後には、BJカートリッジの金属部分が熱くなっている場合があります。やけどの原因になりますので、金属部分に触れないようにしてください。*

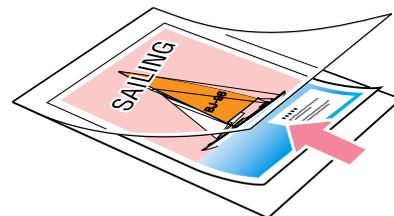
お願い

- *スキャナカートリッジの「読み取り部」「電極部（基板）」には、触れないようにしてください。*
- *カートリッジの交換作業に関係のないプリンタ内部の部品やケーブルには触れないようにしてください。*
- *外したBJカートリッジは、必ず保管箱にしまってください。*
- *スキャナカートリッジを保管するときは、必ず付属の保管袋に入れてください。*
- *スキャナカートリッジは、BJカートリッジ保管箱に入れないでください。読み取り部を傷めることがあります。*
- *長期間、スキャナカートリッジを取り付けたままにすると、プリンタ本体に問題が起こる場合があります。スキャナの作業が終わったら、BJカートリッジに戻すように心がけてください。*

スキャニングホルダ利用法

原稿を読み取るときは、必ずスキャニングホルダをお使いください。

● スキャニングホルダの使いかた

スキャニングホルダを開き、読み取りたい面を上にして原稿をはさみます。
（原稿の左端をスキャニングホルダの左端から 10mm ぐらいのところに合わせてください）

● スキャニングホルダを使えば

スキャニングホルダを使えば、レシートや領収書など小さい原稿、あるいはカールした原稿、破れのある原稿、折り目のある原稿もきれいに読み取ることができます。

お願い

- *紙詰まりの原因となりますので、原稿を直接（スキャニングホルダを使わずに）読み取らせないようにしてください。*
- *スキャニングホルダを無理に開いたり、スキャニングホルダに無理に原稿を押し込んだりしないようにしてください。*
- *直射日光が当たる場所、高温になる場所には置かないでください。変色、変形の原因となります。*
- *原稿をはさんだまま放置しないでください。色移りすることがあります。*
- *スキャニングホルダが汚れたときは、家庭用洗剤を水で薄め、それに浸した柔らかい布でやさしく拭いてください。その後、乾いた柔らかい布で水分を拭き取ってください。*

メモ

- *スキャニングホルダを使用すると、読み取った画像が、原稿の大きさに比べて、多少伸縮することがあります。*
- *スキャニングホルダに細かい傷が付き、画像に影響が出るようになったら、新しいスキャニングホルダに交換してください。スキャニングホルダにはオプション品として A3 タイプ、A4 タイプが用意されています。*

原稿について － その１

ここでは、読み取ることができる原稿の大きさと厚さについて説明します。

読み取り可能な原稿の大きさ（１）

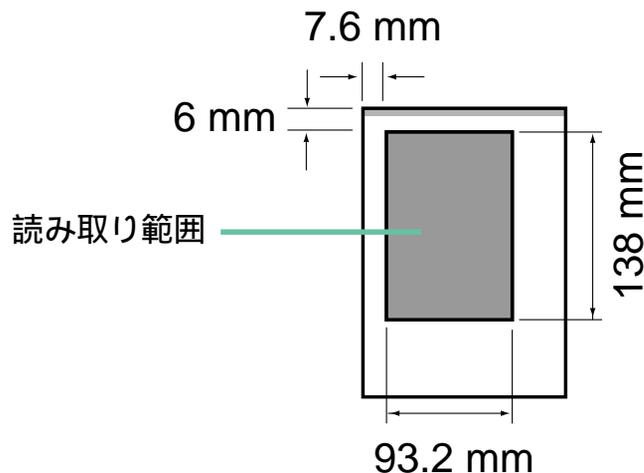
読み取ることができる原稿の大きさ（原稿サイズ）および実際の読み取り範囲は、次の表のようになります。ただし、付属のスキャニングホルダより大きなサイズの原稿を読み取る場合には、別売のA4タイプのスキャニングホルダが必要となります。また、「A3」「B4」「レジャー」は、BJC-465Jのみの対応となります。別売のA3タイプのスキャニングホルダをお使いください。

選択した原稿サイズ	実際に読み取られる範囲	
	幅	高さ
はがき　（100×148 mm）	93.2 mm	138 mm
A5　（148×210 mm）	141.2 mm	200 mm
A4　（210×297 mm）	203.2 mm	287 mm
A3　（297×420 mm）	289.5 mm	410 mm
B5　（182×257 mm）	175.2 mm	247 mm
B4　（257×364 mm）	250.2 mm	354 mm
レター　（8.5×11 inch）	208.2 mm	269.4 mm
リーガル（8.5×14 inch）	208.2 mm	332.6 mm
レジャー（11×17 inch）	272.6 mm	421.8 mm

原稿について ― その2

読み取り可能な原稿の大きさ（2）

スキャニングホルダの上端（綴じてある方）から 6 mm、左端から 7.6 mm の部分は読み取れません。
したがって、例えば「原稿サイズ」として「はがき」を選択した場合には、次の図の部分が、実際に読み取られる範囲となります。

原稿について － その 3

読み取り可能な原稿の厚さ

読み取ることができる原稿の厚さは、スキャニングホルダを含めて、0.45mm までです。スキャニングホルダの厚さが 0.2mm ですので、原稿そのものの厚さは 0.25mm までとなります。

お願い

- *プリンタやスキャナカートリッジが破損することがありますので、ホチキス、クリップなどの付いた原稿は、絶対に読み取らせないでください。*

メモ

- *厚みが薄く、両面印刷された原稿を読み取ると、裏面が透けてしまう場合があります。このような場合には、黒い紙を原稿の裏に重ね、スキャニングホルダにはさんで読み取らせてください。*

原稿をセットする方法 ― その1

BJ F200シリーズの場合

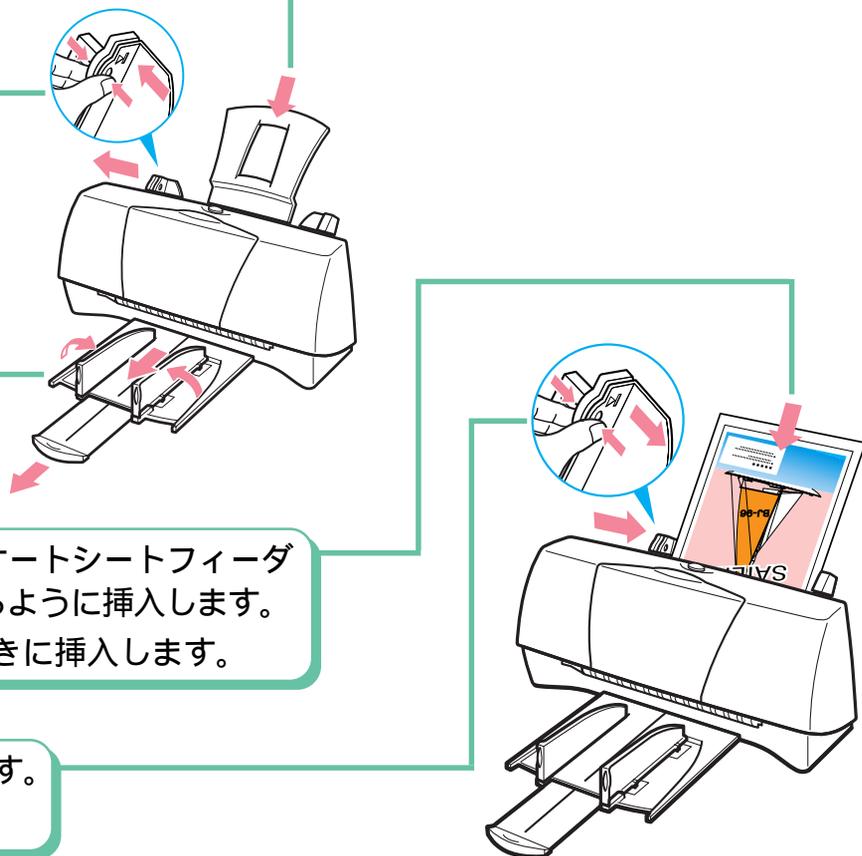
1 用紙サポートを取り付けます。

2 用紙ガイドを左端に移動します。

3 排紙トレイと補助トレイを引き出して、排紙ガイドを立てます。

4 原稿（原稿をはさんだスキャニングホルダ）をオートシートフィーダの右端に合わせ、止まるところまですべらせるように挿入します。
・スキャニングホルダの綴じてある方を下向きに挿入します。

5 用紙ガイドを動かして原稿の左端に合わせます。
・原稿のセットが完了します。

原稿をセットする方法 – その2

● BJC-440J / 430J シリーズの場合

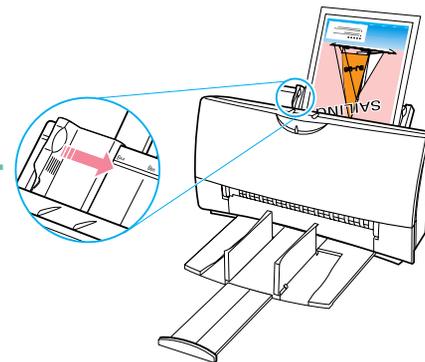
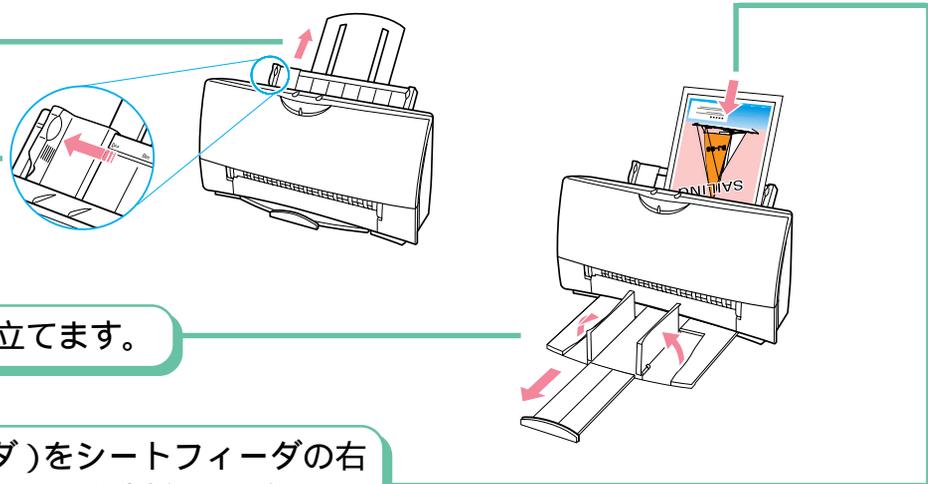
1. 用紙サポートを引き出します。

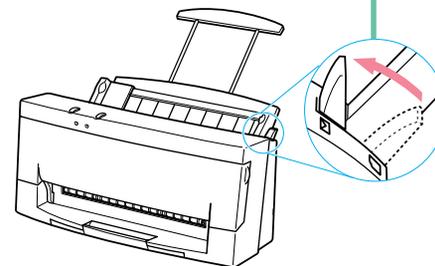
2. 用紙ガイドを左端に移動します。

3. 排紙トレイを引き出して、排紙ガイドを立てます。

4. 原稿（原稿をはさんだスキャニングホルダ）をシートフィーダの右端に合わせ、止まるところまですべらせるように挿入します。
   ・スキャニングホルダの綴じてある方を下向きに挿入します。

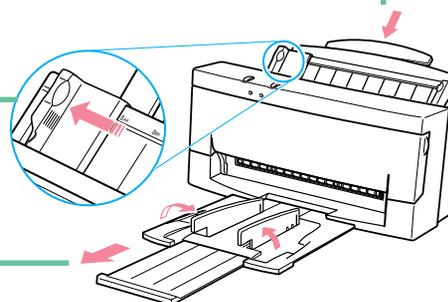
5. 用紙ガイドを動かして原稿の左端に合わせます。
   ・ 原稿のセットが完了します。

原稿をセットする方法 – その3

● BJC-465J シリーズの場合

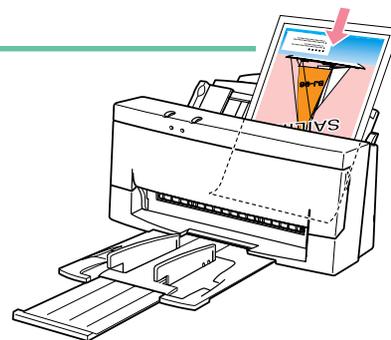
1 用紙選択レバーを ✉ の位置に合わせます。

2 用紙サポートを下げます。

3 用紙ガイドを左端に移動します。

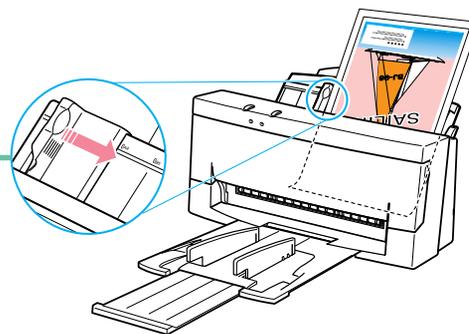
4 排紙トレイを引き出して、排紙ガイドを立てます。

原稿をセットする方法 － その4

5

原稿（原稿をはさんだスキャニングホルダ）をシートフィーダの右端に合わせ、止まるところまですべらせるように挿入します。

・スキャニングホルダの綴じてある方を下向きに挿入します。

6

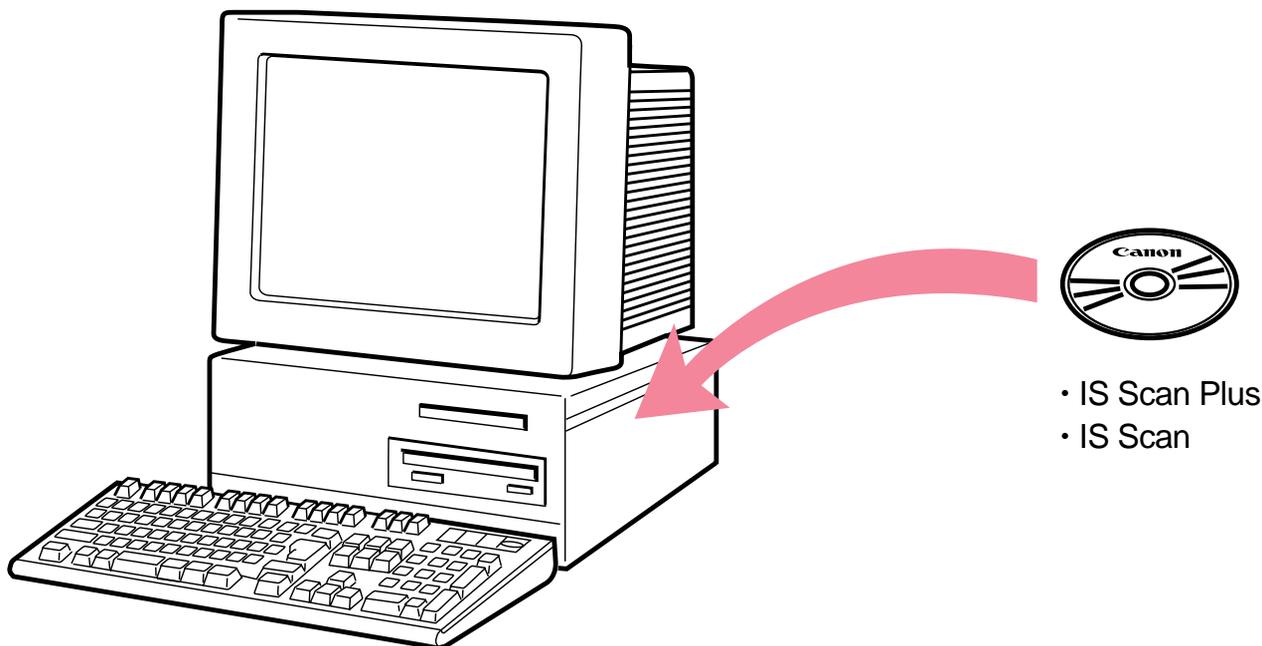
用紙ガイドを動かして原稿の左端に合わせます。

・原稿のセットが完了します。

インストールされたソフトウェア

ここでは、インストールされたスキャナ用ソフトウェアを紹介します。

もし、まだスキャナ用ソフトウェアのインストールがお済みでない場合には、IS-22 に付属の説明書、または プリンタの「かんたんスタートガイド」か「最初にお読みください」をお読みになり、インストール作業を行ってください。

2 つのソフトウェア

標準的な手順でスキャナ用ソフトウェアをインストールすると、「IS Scan Plus」と「IS Scan」という 2 つの ソフトウェアがコンピュータにインストールされます。
「IS Scan Plus」と「IS Scan」は、使える状況や、使う目的の異なるソフトウェアです。次のページから、もう少し詳しく「IS Scan Plus」と「IS Scan」を説明していきます。

IS Scan Plusって何？

「IS Scan Plus」は簡単操作のアプリケーションソフトです。

● IS Scan Plus

IS Scan Plus は、簡単な操作で、気軽に読み取り作業を行うことのできるアプリケーションソフトです。
基本的な読み取り機能に加え、画像を編集、加工する機能や、画像をそのままプリンタで印刷する機能なども備えています。

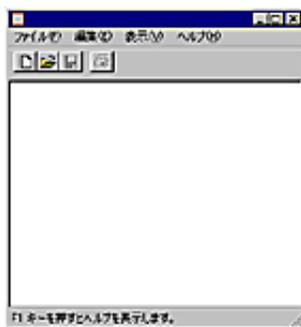
IS Scanって何？

「IS Scan」は、TWAIN 対応アプリケーションソフトから呼び出すことのできる TWAIN ドライバです。

IS Scan

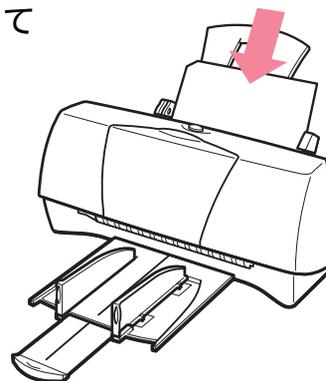
TWAIN ドライバです‥‥といってもちょっとピンとこないかもしれませんね。
簡単に言えば、あるアプリケーションソフトを使っているとき、そのソフトウェア上で、読み取り作業を実現するためのソフトウェアです。あたかも、そのソフトウェアの持っている機能のように読み取りを実行することができます。（TWAIN については、付録の「用語解説」で説明しています）

1. TWAIN 対応のアプリケーションソフトからIS Scanを呼び出します。
2. IS Scan で読み取り操作を行います。
3. ［転送］をクリックします。
   - グラフィックアプリケーションソフトに読み取った画像が渡されます。

白基準補正？ ― その１

「白基準補正」って何でしょう？

● はじめての読み取り前に白基準補正

はじめて読み取りを行うときには、その前に「白基準補正」という作業を実行しておかなければなりません。

上のような画面が表示されたら、「白基準シート」をセットして［OK］をクリックしてください。

お願い

- *白基準シートを折り曲げたり、汚したりしないようにしてください。汚れた場合には、家庭用洗剤を水で薄め、それに浸した柔らかい布でやさしく拭いてください。その後、乾いた柔らかい布、紙で水分を拭き取ってください。*
- *白基準シートを直射日光の当たる場所や高温、多湿になる場所に置かないでください。変色、変形することがあります。*
- *白基準シートはなくさないように保管してください。*

白基準補正？ ─ その2

白基準補正の役割

すべての色は「白」をベースに認識されます。
白色を知らないコンピュータに「これが白色なんだよ」と正確な白色を覚えさせる作業。それが「白基準補正」です。
この「白基準補正」をきちんとしておかないと、原稿と読み取った画像の色が微妙に違ったり、白いはずの部分にうっすらと色が付いたりということが起こります。

どんなときに白基準補正をするの？

はじめての読み取りのときに行う白基準補正。これで、しばらく白基準補正を行う必要はないでしょう。しかし、次のようなときは、手動で白基準補正を行ってください。
手動で白基準補正を行う方法については、このガイドの第３章、第４章で説明しています。

- より正確な色で原稿を読み取らせたいとき
- なんとなく原稿の色と、読み取った画像の色とが合わなくなってきたとき
- 読み取った画像にムラが多いとき

また、温度などプリンタをとりまく環境が大きく変化したときには、コンピュータから白基準補正を要求されることがあります。この場合には、メッセージにしたがって白基準補正を行ってください。

悩んだときはヘルプを見る

IS Scan Plus、IS Scan には、充実したヘルプ機能が搭載されています。

操作中に悩んだり、困ったりしたとき、あるいはもっと詳しいことを知りたいと思ったときは、次のような方法でヘルプをご覧ください。

● IS Scan Plus でヘルプを表示させる

［ヘルプ］をクリックします。

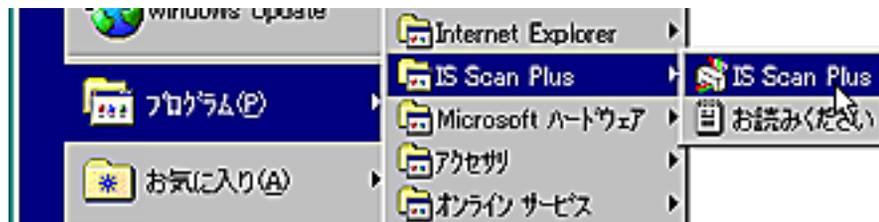
● IS Scan でヘルプを表示させる

［?］をクリックします。

ヘルプの画面では、［目次］や［キーワード］などを使って目的の機能や説明を探すこともできます。ご活用ください。

IS Scan Plus の起動と終了

ここでは、IS Scan Plus の起動の手順と、終了の手順を覚えましょう。

● IS Scan Plus を起動する

● IS Scan Plus を終了する

メモ

- *原稿を読み取った後、その画像を保存しないで［終了］をクリックすると、保存の有無を確認するメッセージが表示されます。*

IS Scan Plusの４つの機能

IS Scan Plusには、大きく分けて４つの機能があります。ここでは、その４つの機能をご紹介しましょう。

● コピーしよう

原稿を読み取り、その画像を印刷します。プリンタをカラーコピー（またはモノクロコピー）のように使うことができます。

● 写真を取り込もう

写真などの原稿を読み取り、画像ファイルとして保存します。さまざまな編集、加工機能を活用して、オリジナリティあふれる作品を創ることが可能です。

● 画像を取り込もう

原稿を読み取り、画像ファイルとして保存します。原稿のタイプを選択するだけで、読み取り方式（カラー、グレースケール、モノクロの選択）や解像度（読み取る細かさ）などは、自動的に設定されます。各設定を細かく指定することも可能です。

● デバイス情報

接続されているプリンタの機種名と、通信モードを確認することができます。

メモ

- *写真を取り込む方法には、「写真を取り込もう」で読み取る方法と、「画像を取り込もう」の中で「写真」を選んで読み取る方法とがあります。気軽に写真を取り込んで編集機能を楽しむ場合には前者の方法、より高い解像度で（よりきめ細かい画像として）写真を取り込みたい場合は後者の方法をお使いください。*

手動で白基準補正を実行する – その1

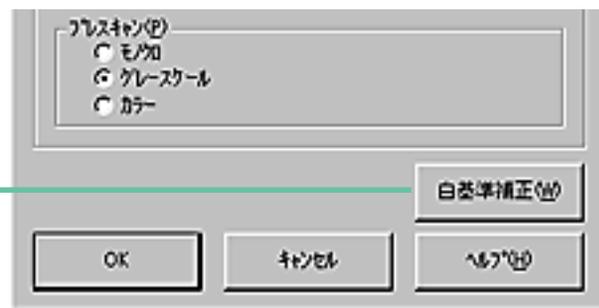
はじめて IS ScanPlus を使う前に、白基準補正を行っておきましょう。

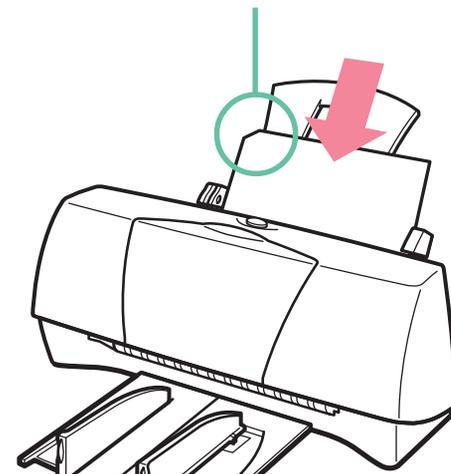
メモ

- *これまでに、まだ一度も読み取りをしていない場合には、ここで白基準補正を実行しておきましょう。白基準補正を済ませないで、読み取りを実行しようとすると、読み取りを行う直前に、「白基準用紙をセットしてください」というメッセージが表示されます。その場合には、ここで説明する手順4の操作を行ってください。*
- *すでに、IS Scan で白基準補正が済んでいる場合には、白基準補正の必要はありません。*
- *白基準補正の役割などについては、第2章の「白基準補正？」をご覧ください。*

1 「画像を取り込もう」をクリックします。

2 ［カスタム設定］をクリックします。
・細かい設定を行う画面が表示されます。

手動で白基準補正を実行する – その2

3 ［白基準補正］をクリックします。

4 上のようなメッセージが表示されたら、白基準シートをセットし、［OK］をクリックします。
・白基準シートが排出されたら、白基準補正の終了です。

コピーしよう － その１

ここでは、「コピーしよう」の操作を説明します。

1. ［コピーしよう］をクリックします。

2. ［原稿の種類］を選択します。
   - カラーの原稿をカラーで印刷する場合は［カラー］を、モノクロの原稿をモノクロで印刷する場合は［モノクロ］を選択します。また、カラーの原稿をモノクロで印刷したい場合には、［モノクロ］を選択してください。

3. ［コピーモード］を選択します。
   - 品質優先で印刷したい場合には［きれい］を、速さ優先で印刷したい場合には［速い］を選択します。

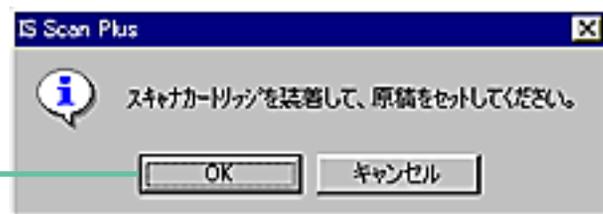
4. 読み取る原稿の［原稿サイズ］を選択します。

5. ［部数］を指定します。
   - ここの数字がグレーで表示され、部数を指定できない場合や、印刷に関する設定がお済みでない場合には、右側の［プリンタの設定］をクリックして、印刷に関する設定を行ってください。

コピーしよう ― その2

6 [コピー] をクリックします。

7 右のようなメッセージが表示されたら、スキャナカートリッジを取り付け、原稿をセットした後、[OK] をクリックします。

- すでにスキャナカートリッジが取り付けられている場合には、そのまま原稿だけをセットし、[OK] をクリックします。
- 原稿の読み取りがはじまり、ウィンドウの左側の部分に表示されていきます。読み取りが終了すると次のようなメッセージが表示されます。

8 右のようなメッセージが表示されたら、スキャナカートリッジのかわりに BJ カートリッジを取り付け、用紙をセットした後、[OK] をクリックします。

- 印刷がはじまります。印刷が終われば「コピーしよう」の操作は完了です。
- BJカートリッジを取り付けた後、すぐに [OK] をクリックすると、プリンタの準備が間に合わず、エラーメッセージが表示されることがあります。少し待つか、[再試行] をクリックすると、印刷がはじまります。
- 原稿よりも小さいサイズの用紙が選択されている場合には、縮小して印刷されます。

コピーしよう – その3

●「コピーしよう」のその他の機能

コピー後、この部分で範囲を指定し、[保存] をクリックすると、画像の一部分だけを保存することができます。

[メニューへ] または [戻る] をクリックすると、最初の画面に戻ります。

コピー後、[保存] をクリックすると、読み取った画像を画像ファイルとして保存することができます。

- 画像の保存の操作については、次項の「画像を取り込もう」で詳しく説明します。

表示倍率を切り替えることができます。

- 範囲指定をして原稿を読み取った場合にのみ使用できます。

コピー後、[クリア] をクリックすると、読み取った画像を消去することができます。

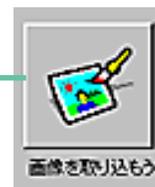
この部分の数値を指定することで、範囲の大きさを指定することができます。

コピー後、もう一度 [コピー] をクリックすると、別の原稿をコピーすることができます。

コピー後、[再印刷] をクリックすると、同じ原稿を追加印刷することができます。

画像を取り込もう ─ その1

ここでは、「画像を取り込もう」の操作を説明します。

1 ［画像を取り込もう］をクリックします。

2 ［読み取り設定］を次の中から選択します。

［DTP（カラー）］：画像と文字を含んだ DTP 原稿（例えば雑誌のカラーページなど）を読み取るときに選択します。

［写真］：写真を比較的高い解像度で（よりきめ細かい画像として）読み取るときに選択します。（「写真を取り込もう」よりも高い解像度で読み取られます）

［カスタム設定］：読み取りに関するさまざまな設定を、細かく指定することができます。この操作については、この章の後半の「カスタム設定活用法」で説明します。

［DTP（モノクロ）］：画像と文字を含んだ DTP 原稿（例えば雑誌のモノクロページなど）を読み取るときに選択します。

［テキスト］：新聞の切り抜きなど、文字が中心の原稿を読み取るときに選択します。

選択した設定（チェックマークの付いた設定）を、もう一度クリックすると、その設定の詳細を確認することができます。

画像を取り込もう ― その２

3 ［原稿サイズ］を選択します。

4 原稿をセットします。

- まだスキャナカートリッジが取り付けられていない場合には、ここでスキャナカートリッジを取り付けてください。

5 ［スキャン］をクリックします。

- 原稿の読み取りがはじまり、ウィンドウの左側の部分に表示されていきます。読み取りが終了したら、次の手順に進んでください。

6 表示された画像の上でドラッグを行い、画像として保存する範囲を指定します。

- 読み取った画像全体を保存する場合には、この手順は省略できます。
- 指定した範囲の4頂点および4辺中央に表示されている■をドラッグすることで、範囲の大きさを変更することができます。また、範囲内にマウスポインタを移動し、ドラッグすることで、範囲の位置を動かすことができます。
- 範囲指定を解除する場合には、右クリックします。

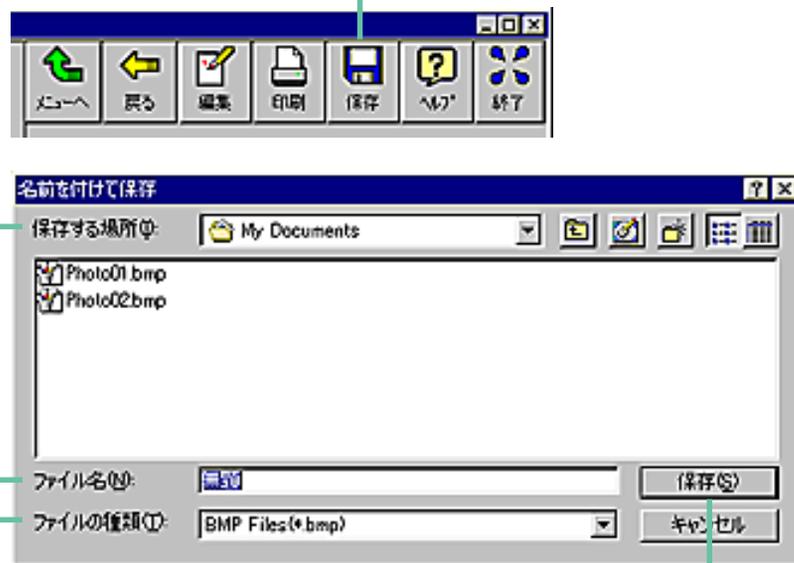
画像を取り込もう － その３

7 ［保存］をクリックします。

8 保存する場所を選択します。

9 ファイル名を指定します。
- 画像に付けるファイル名を入力します。
- 拡張子は自動的に付けられますので、入力する必要はありません。

10 ファイルの種類を選択します。
- ファイルの種類は、「BMP」「JPEG」「TIFF」の中から選択します。各ファイルの特徴については、付録の用語解説をご覧ください。

11 ［保存］をクリックします。
- これで画像ファイルが保存され、「画像を取り込もう」の操作は終了します。

画像を取り込もう ― その 4

●「画像を取り込もう」のその他の機能

[メニューへ] または [戻る] をクリックすると、最初の画面に戻ります。

[編集] をクリックすると、画像を加工することができます。詳しくは、この章の後半の「編集機能を使いこなす」で説明します。

[印刷] をクリックすると、読み取った画像を印刷することができます。

- スキャナカートリッジを BJ カートリッジに交換し、用紙をセットしてから、この [印刷] をクリックしてください。

表示倍率を切り替えることができます。

- 範囲指定をして原稿を読み取った場合にのみ使用できます。

この部分の数値を指定することで、範囲の大きさを指定することができます。

[クリア] をクリックすると、読み取った画像を消去することができます。

もう一度 [スキャン] をクリックすると、別の原稿を読み取ることができます。

[プレスキャン] を活用すると、読み取り時間を短縮することができます。詳しくは、この章の後半の「プレスキャン活用法」で説明します。

写真を取り込もう — その１

ここでは、「写真を取り込もう」の操作を説明します。

1 [写真を取り込もう]をクリックします。

2 [写真の種類] を選択します。
- カラー写真をモノクロで読み取りたい場合は、[モノクロ写真] を選択します。

3 [写真のサイズ] を選択します。

4 原稿をセットします。
- まだスキャナカートリッジが取り付けられていない場合には、ここでスキャナカートリッジを取り付けてください。

5 [スキャン] をクリックします。
- 原稿の読み取りがはじまり、ウィンドウの左側の部分に表示されていきます。読み取りが終了したら、次の手順に進んでください。

写真を取り込もう － その2

6 画像として保存する範囲を調整します。
- 選択された範囲の4頂点および4辺中央に表示されている■をドラッグすることで、範囲の大きさを変更することができます。また、範囲内にマウスポインタを移動し､ドラッグすることで､範囲の位置を動かすことができます。

7 ［保存］をクリックします。

写真を取り込もう ― その3

8 保存する場所を選択します。

9 ファイル名を指定します。

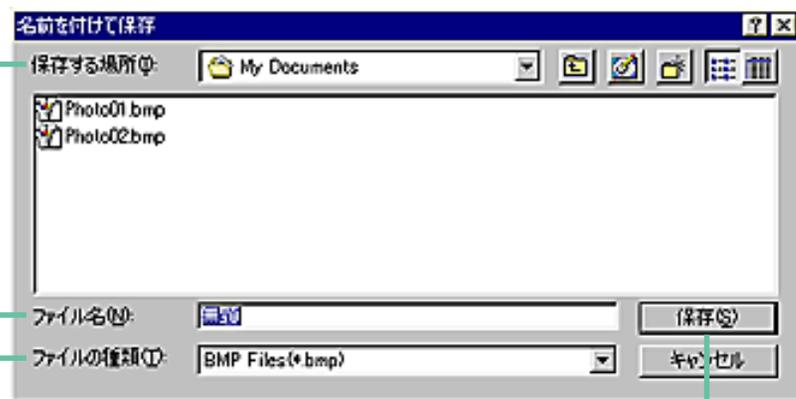
・画像に付けるファイル名を入力します。

・拡張子は自動的に付けられますので、入力する必要はありません。

10 ファイルの種類を選択します。

・ファイルの種類は、「BMP」「JPEG」「TIFF」の中から選択します。各ファイルの特徴については、付録の用語解説をご覧ください。

11 [保存] をクリックします。

・これで画像ファイルが保存され、「写真を取り込もう」の操作は終了します。

写真を取り込もう ― その4

「写真を取り込もう」のその他の機能

[メニューへ]または[戻る]をクリックすると、最初の画面に戻ります。

[編集]をクリックすると、画像を加工することができます。詳しくは、この章の後半の「編集機能を使いこなす」で説明します。

[印刷]をクリックすると、読み取った画像を印刷することができます。

- スキャナカートリッジをBJカートリッジに交換し、用紙をセットしてから、この[印刷]をクリックしてください。

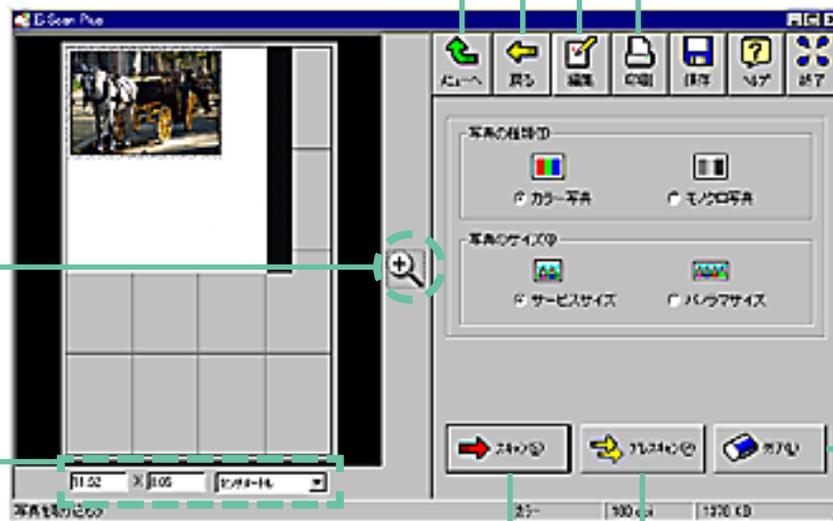
表示倍率を切り替えることができます。

- 範囲指定をして原稿を読み取った場合にのみ使用できます。

この部分の数値を指定することで、範囲の大きさを指定することができます。

[クリア]をクリックすると、読み取った画像を消去することができます。

もう一度[スキャン]をクリックすると、別の原稿を読み取ることができます。

[プレスキャン]を活用すると、読み取り時間を短縮することができます。詳しくは、この章の後半の「プレスキャン活用法」で説明します。

デバイス情報

ここでは、「デバイス情報」の操作を説明します。

1 ［デバイス情報］をクリックします。

- 次のようなウィンドウが表示され、接続されているプリンタの機種名と、情報のやりとりに使用している通信モードが表示されます。

2 画面の確認が終わったら、［OK］をクリックします。

- これで「デバイス情報」の操作は終了です。

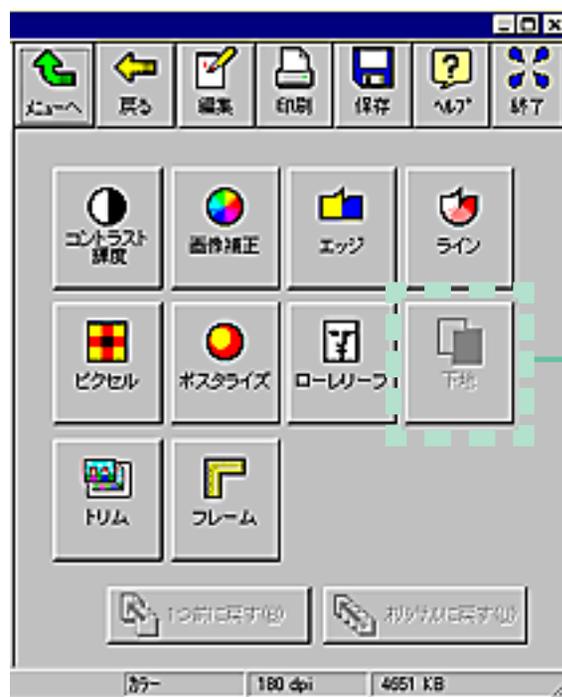
編集機能を使いこなす – その１

「画像を取り込もう」と「写真を取り込もう」では、読み取った後、その画像を編集することができます。

● 編集をはじめる方法

1 「画像を取り込もう」または「写真を取り込もう」の操作で画像を読み取ります。

2 ［編集］をクリックします。

・次のような編集機能を選択する画面が表示されます。

現在、使用できない機能は、このようにグレーで表示されます。

編集機能を使いこなす ― その２

● 編集の基本操作

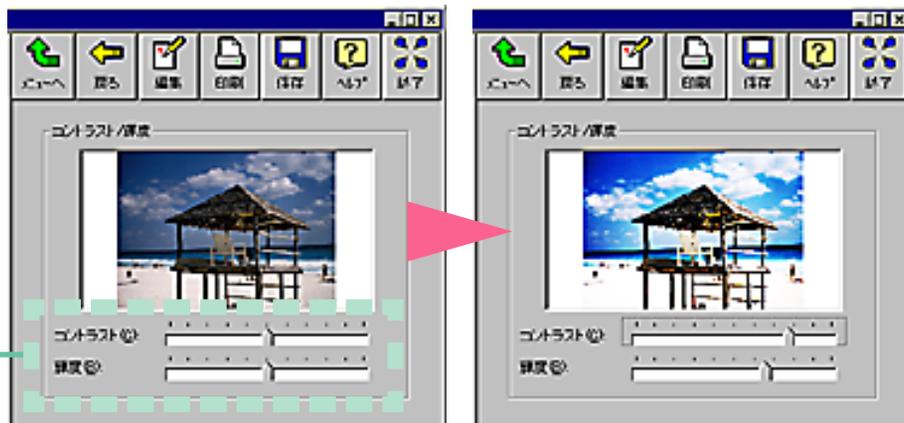
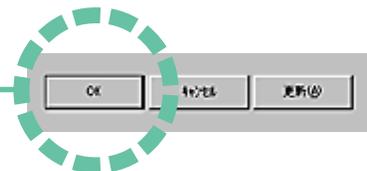
ここでは、[コントラスト 輝度]を例にして、編集操作の流れを説明します。

1 使いたい編集機能を選択します。

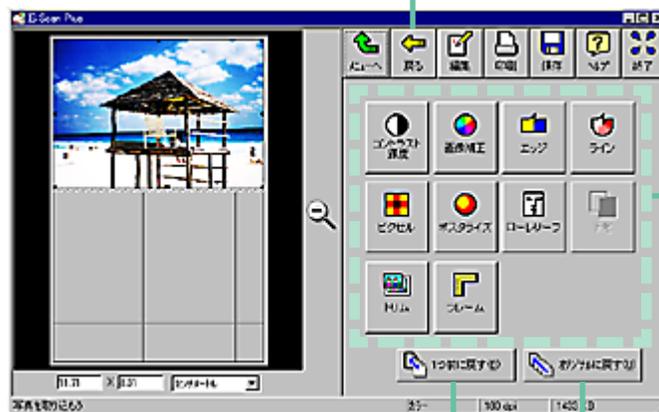
- この例では、[コントラスト 輝度] をクリックします。

2 この部分で各設定を変更します。

- すぐ上の画像がそれに合わせて変化します。

編集機能を使いこなす ─ その3

3 思いどおりの画像になったら［OK］をクリックします。
・ウィンドウの左側の画像に編集の効果が反映されます。

4 ［戻る］をクリックすると、編集をはじめる前の画面に戻ります。
・これで、編集作業が終了します。
・［戻る］をクリックする前に、次のような機能を使うことができます。

［1つ前に戻す］をクリックすると、直前に実行した編集を取り消すことができます。

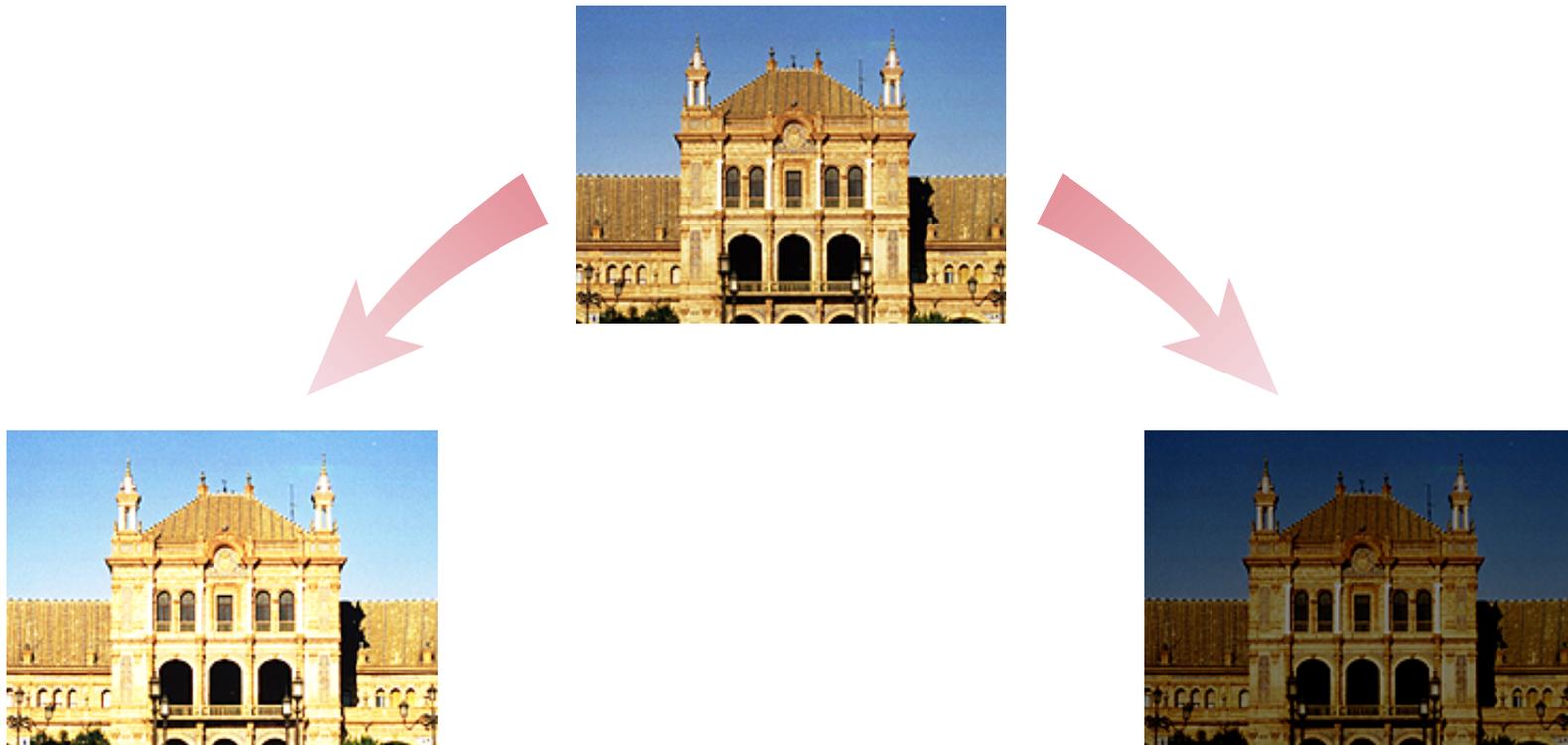
［オリジナルに戻す］をクリックすると、取り込んだ直後の状態に戻すことができます。
・ ただし、トリムを実行すると、それ以前の状態には戻れなくなります。

続けて他の編集機能を使うことができます。

編集機能を使いこなす – その4

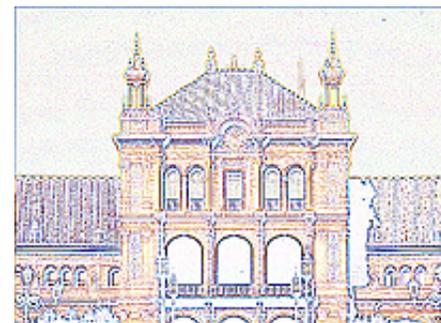
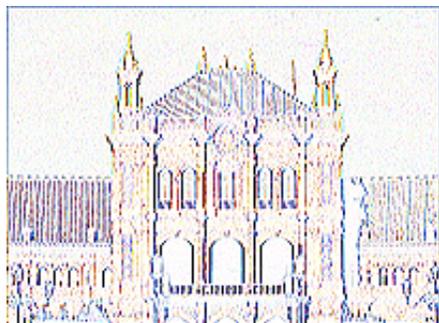
編集機能のご紹介

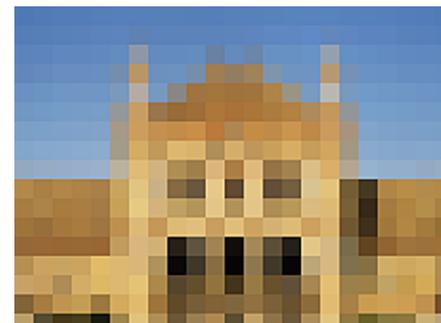
ここからは、IS Scan Plusに入っている全編集機能の効果を紹介していきます。各編集機能の使いかたや設定方法については、IS Scan Plusのヘルプをご覧ください。

［コントラスト 輝度］　コントラスト（明暗の差）と明るさを調整します。

編集機能を使いこなす － その5

[画像補正]　　シャープさ、ソフトさ、色調の反転などが可能です。

[エッジ]　　画像の輪郭を抽出します。

編集機能を使いこなす ― その６

[ライン]　画像の輪郭を縦、横の線で表現します。

[ピクセル]　画像をモザイク模様で表現します。

編集機能を使いこなす — その 7

[ポスタライズ]　画像の色数を減らして、版画のような効果を出します。

[ローレリーフ]　浮き彫りや金属の表面のような効果を出します。

編集機能を使いこなす － その８

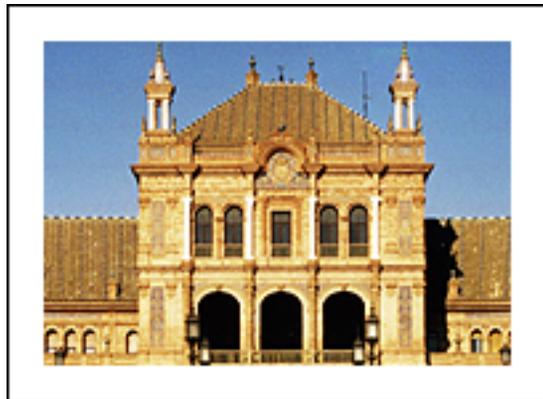
［下地］　モノクロの画像のバックに、カラーの模様を付けます。

メモ

- ［下地］を実行できるのは「画像を取り込もう」で［テキスト］を選択した場合、および［カスタム設定］で「読み取り方式」として［モノクロ］を選択した場合に限られます。

編集機能を使いこなす ― その9

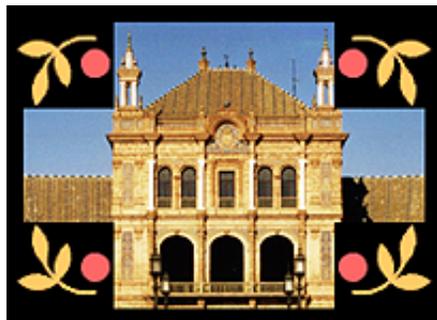
[トリム]

画像だけを残し、回りの余白の部分を削除します。
(「写真を取り込もう」時のみ使用可)

メモ

- この機能は、現在指定されている範囲内の余白部分を自動的に検知し、画像部分だけを切り出す機能です。
- 範囲を指定して、その範囲だけを残し、それ以外の部分を削除することもできます。

[フレーム]

画像に額縁のような飾りを付けます。
(「写真を取り込もう」時のみ使用可)

プレスキャン活用法 ─ その１

プレスキャンを活用すれば、必要な部分だけを、すばやく読み取ることができます。

プレスキャンの意味

解像度（画像を読み取る細かさ）が高くなればなるほど、読み取りにかかる時間は長くなります。また、カラー画像は、グレースケール画像（白〜灰色〜黒で表現された画像）やモノクロ画像（白と黒のみで表現された画像）に比べて、読み取りに時間がかかります。
例えば、「A4の原稿のほんの一部分だけを、高い解像度、カラーで読み取りたい」という状況を考えてみましょう。

上の手順「1」のように、「読み取る範囲を指定するために行う仮の読み取り」のことを「プレスキャン」と呼びます。このように、原稿全体に対して、読み取りたい範囲が小さい場合、「プレスキャン」を上手に活用することで、読み取りにかかる時間を大幅に短縮することができます。

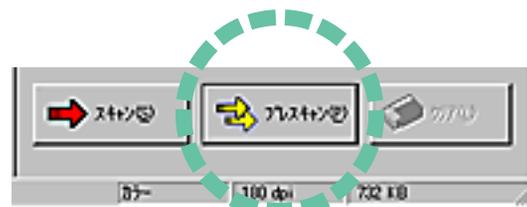
メモ

- *プレスキャンは、「画像を取り込もう」と「写真を取り込もう」で使用できます。*

プレスキャン活用法 ― その2

● プレスキャンの手順

実際にプレスキャンの操作を見てみましょう。

1 原稿をセットして、［プレスキャン］をクリックします。

2 読み取りたい範囲を指定します。

3 もう一度、原稿をセットしなおします。

4 ［スキャン］をクリックします。
- 指定した範囲だけが、読み取られます。

カスタム設定活用法 ─ その1

「画像を取り込もう」では、読み取りに関する設定を、細かく指定することができます。

● カスタム設定の画面を出す方法

1 「画像を取り込もう」をクリックします。

2 ［カスタム設定］をクリックします。
・細かい設定を行う画面が表示されます。

メモ

・*「読み取り方式」などの設定によって、設定可能な項目は変わります。グレーで表示された項目は、設定を変えることができない項目です。*

カスタム設定活用法 – その2

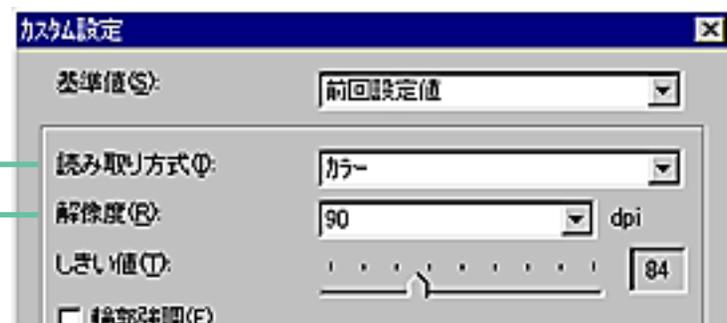
カスタム設定の設定項目

ここでは、特に重要な設定項目［読み取り方式］と［解像度］についてのみ説明します。
この他の設定項目については、IS Scan Plusのヘルプをご覧ください。

［読み取り方式］では、原稿を読み取る方法を選択します。

- カラーで読み取る場合は［カラー］を、グレースケール（白〜灰色〜黒で表現される画像）で読み取る場合は［グレースケール］を、モノクロ（白と黒で表現される画像）で読み取る場合は［モノクロ］を選択します。

［解像度］では、原稿を読み取る細かさを指定します。

- 解像度の数値が高いほど、きめの細かい画像となります。ただし、その分だけファイルサイズ（ファイルの容量）が大きくなります。
- 一般的に、画面に表示するための画像の場合は90dpi、プリンタで印刷するための画像の場合は180〜360dpiを目安にしてください。
- ただし、読み取った画像を拡大して表示したり、印刷したりする場合には、より高い解像度で読み取っておく必要があります。

［OK］をクリックすると、設定が完了します。

［ヘルプ］をクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

IS Scan を呼び出す － その 1

ここでは、TWAIN 対応のアプリケーションソフトから、IS Scan を呼び出す操作について説明します。

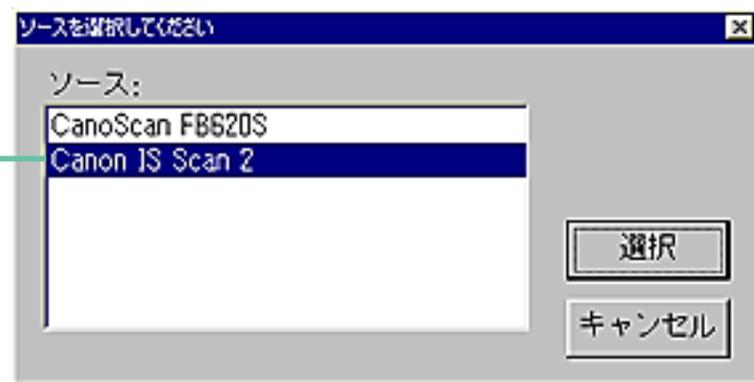
入力機器を選択する操作

お使いのコンピュータに、複数の TWAIN ドライバがインストールされている（スキャナやデジタルカメラなど、2 台以上の TWAIN 入力機器が接続されている）場合には、「これから、どの機器を使うのか」を選択する必要があります。

入力機器を選択する機能は、アプリケーションソフトによって異なりますが、多くの場合、［ファイル］メニューの中に「TWAIN 対応機器の選択」「スキャナの選択」などといった名称で入っています。詳しくは、お使いのアプリケーションソフトの説明書をご覧ください。

この機能を選択すると、TWAIN 入力機器を選択する画面が表示されます。（この画面もアプリケーションソフトによって、大きく異なります）

TWAIN 入力機器を選択する画面が表示されたら、「Canon IS Scan 2」をクリックします。

続いて画面を閉じます。これで、IS Scan が使える状態になります。通常、この選択は、あらためて別の機器を選択しなおすまで、有効となります。

メモ

- *アプリケーションソフトによっては、TWAIN 機器を 1 台しか接続していなくても、最初にその機器を選択しておかなければ使えないものもあります。*

IS Scan を呼び出す － その 2

IS Scan を呼び出す操作

アプリケーションソフトから、IS Scanを呼び出す方法も、アプリケーションソフトによって異なります。
多くの場合、［ファイル］メニューの中に「TWAIN 対応機器からの入力」「新規スキャン」などといった名称で入っています。
この機能を選択すると、アプリケーションソフトの画面に重なるようにして、右のような画面が表示されます。

これが IS Scan の画面です

お願い

- *IS Scan が呼び出されている状態で、呼び出した側のアプリケーションソフトを終了させないようにしてください。*
- *IS Scan が呼び出せない場合には、アプリケーションソフトが「TWAIN_32 バージョン 1.6 以降」の TWAIN に対応しているか確認してください。*

手動で白基準補正を実行する

IS Scan で白基準補正を行う手順を説明します。

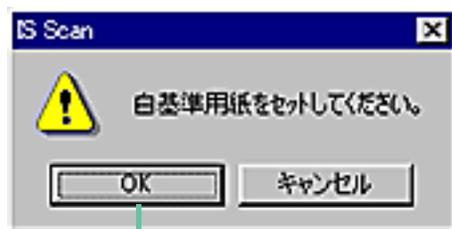
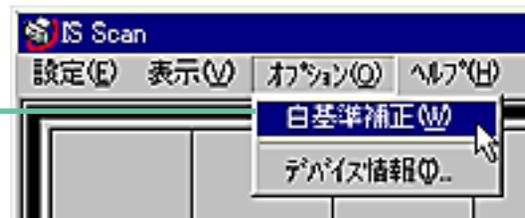
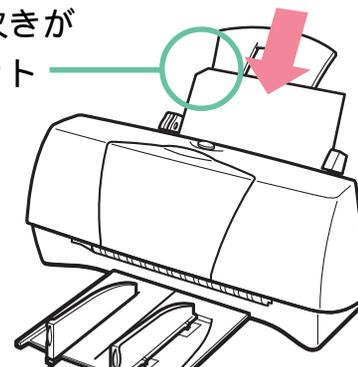
メモ

- *これまでに、まだ一度も読み取りをしていない場合には、ここで白基準補正を実行しておきましょう。白基準補正を済ませないで、読み取りを実行しようとすると、読み取りを行う直前に、「白基準用紙をセットしてください」というメッセージが表示されます。その場合には、ここで説明する手順 2 の操作を行ってください。*
- *すでに、IS Scan Plus で白基準補正が済んでいる場合には、白基準補正の必要はありません。*
- *白基準補正の役割などについては、第 2 章の「白基準補正？」をご覧ください。*

1 ［オプション］メニューから［白基準補正］を選択します。

IS Scan
設定(E) 表示(V) オプション(O) ヘルプ(H)
白基準補正(W)
デバイス情報(I)...

IS Scan
白基準用紙をセットしてください。
OK キャンセル

2 上のようなメッセージが表示されたら、白基準シートをセットし、［OK］をクリックします。
・白基準シートが排出されたら、白基準補正の終了です。

白基準シートの切り欠きが左上にくるようにセット

IS Scanで読み取る − その1

ここでは、アプリケーションソフトから呼び出したIS Scanを使って原稿を読み取る操作を説明します。

1 ［原稿サイズ］を選択します。

2 ［読み取り設定］を次の中から選択します。

［DTP（カラー）］：画像と文字を含んだDTP原稿（例えば雑誌のカラーページなど）を読み取るときに選択します。

［写真］：写真を比較的高い解像度で（よりきめ細かい画像として）読み取るときに選択します。

［OCR］：OCRアプリケーションソフト（原稿の文字をテキストデータに変換するソフトウェア）用の画像データを作成するときに選択します。

［DTP（モノクロ）］：画像と文字を含んだDTP原稿（例えば雑誌のモノクロページなど）を読み取るときに選択します。

［FAX］：ファクシミリで送付する画像を読み取るときに選択します。

［テキスト］：新聞の切り抜きなど、文字が中心の原稿を読み取るときに選択します。

［カスタム設定］：読み取りに関するさまざまな設定を、細かく指定することができます。詳しくは、第3章の「カスタム設定活用法」をご覧ください。

選択した設定（チェックマークの付いた設定）を、もう一度クリックすると、その設定の詳細を確認することができます。

IS Scan で読み取る ― その 2

3 **原稿をセットします。**

- まだスキャナカートリッジが取り付けられていない場合には、ここでスキャナカートリッジを取り付けてください。

スキャン(S) プレスキャン(P)

4 **[スキャン] をクリックします。**

- 原稿の読み取りがはじまり、ウィンドウの左側の部分に表示されていきます。読み取りが終了したら、次の手順に進んでください。

5 **[転送] をクリックします。**

- 読み取った画像が、アプリケーションソフトに転送されます。

IS Scanで読み取る － その3

● 読み取りの画面で使えるその他の機能（読み取り前）

全設定を「設定ファイル」として保存することができます。詳しくは、この章の「設定ファイルの使いかた」をご覧ください。

クローズボックスをクリックすると、IS Scanが終了します。

この部分の数値を指定することで、範囲の大きさを指定することができます。

［標準に戻す］をクリックすると、全項目が標準的な設定に戻ります。

［プレスキャン］を活用すると、読み取り時間を短縮することができます。詳しくは、第3章の「プレスキャン活用法」をご覧ください。

IS Scan で読み取る ― その 4

読み取りの画面で使えるその他の機能（読み取り後）

クローズボックスをクリックすると、IS Scan を終了します。

表示倍率を切り替えることができます。

- 範囲指定をして原稿を読み取った場合にのみ使用できます。

［クリア］をクリックすると、読み取った画像を消去することができます。

設定ファイルの使いかた – その 1

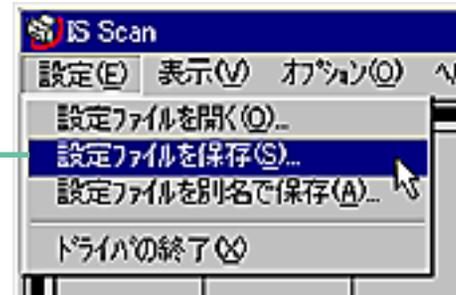
読み取りに関する全設定を、コンピュータに保存しておくことができます。

● 設定ファイルの役割

例えば、あなたの趣味が、何かのカードの収集だとしましょう。コレクションを画像データにして、コンピュータに保存することにしました。しかし、カードの読み取りにちょうど良いサイズ、解像度、範囲を苦労して設定したとしても、毎回、カードを読み取らせるたびに、いちいち設定していたのでは大変です。
こんなときに活用して欲しいのが「設定ファイル」です。IS Scan の画面で設定したすべての設定情報を、まるごと保存することができます。
次回、保存してある設定ファイルを開けば、全設定が保存したときの状態に戻ります。

● 設定ファイルを保存する

1. ［設定］メニューから［設定ファイルを保存］を選択します。

2. はじめて保存するときは､通常の保存ウィンドウが表示されます。フォルダとファイル名を指定して、［保存］をクリックします。
   - 2 度目以降は、ファイルを上書きする確認のメッセージが表示されます。

メモ

- *設定ファイルは、通常「IS Scan」フォルダに保存しておくことをおすすめします。*
- *設定ファイルには、「.bjs」という拡張子が付きます。*

設定ファイルの使いかた − その 2

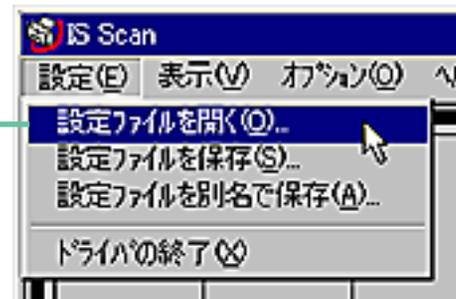
設定ファイルを別名で保存する

1 [設定] メニューから [設定ファイルを別名で保存] を選択します。

2 通常の保存ウィンドウが表示されます。フォルダとファイル名を指定して、[保存] をクリックします。

設定ファイルを開く

1 [設定] メニューから [設定ファイルを開く] を選択します。

2 通常の「開く」ウィンドウが表示されます。ファイルを選択して、[開く] をクリックします。

デバイス情報を見る

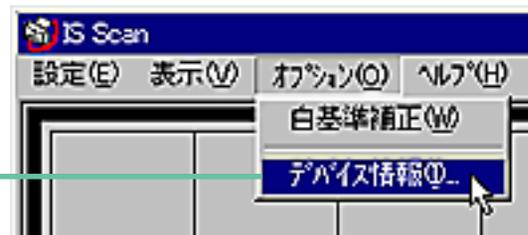
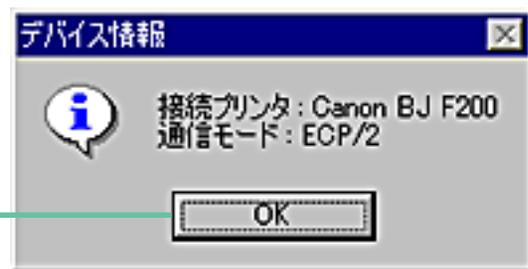
接続されているプリンタの機種名と通信モードを確認する機能です。

1 ［オプション］メニューから［デバイス情報］を選択します。

・次のようなウィンドウが表示され、接続されているプリンタの機種名と、情報のやりとりに使用している通信モードが表示されます。

2 画面の確認が終わったら、［OK］をクリックします。

・これで「デバイス情報」の操作は終了です。

まずは確認

画像がうまく読み取れない場合や、エラーメッセージが表示された場合など、何らかの問題が起きたとき、まずは、次のことを確認してください。

ハードウェアとソフトウェアが動作条件を満たしていますか。

- 動作条件件については、プリンタの説明書の「仕様」およびスキャナの Read me（お読みください）をご覧ください。

コンピュータとプリンタの電源は入っていますか。

- 電源の入れかたについては、コンピュータの説明書およびプリンタの「かんたんスタートガイド」をご覧ください。

コンピュータとプリンタは正しく接続されていますか。

- 接続方法については、プリンタの「かんたんスタートガイド」をご覧ください。

スキャナ用ソフトウェアは、正しくインストールされていますか。

- インストールの方法については、IS-22 に付属の説明書、またはプリンタの「かんたんスタートガイド」をご覧ください。

スキャナカートリッジは正しく取り付けられていますか。

- スキャナカートリッジの取り付け方法については、プリンタの説明書（CD-ROM に入っている場合もあります）のスキャナカートリッジについて説明しているページをご覧ください。

以上のことを確認しても、症状が解決しない場合は、症状をよく確認した上で、次ページからはじまる説明をご覧ください。

こんな症状があるときは ― その1

? 画像がぼやける、ゆがむ、色がにじむ

- 原稿が厚すぎませんか。スキャニングホルダも含めて0.45mm以下になるようにしてください。（原稿自身の厚さは0.25mm 以下）
- 原稿そのものがぼやけたり、にじんだりしていませんか。原稿以上に鮮明な画像は得られません。
- 原稿が読み取り可能範囲外にありませんか。原稿は読み取り可能範囲内にセットしてください。
- スキャニングホルダが汚れていたり、傷ついていたりしていませんか。汚れている場合は、家庭用洗剤を水で薄め、それに浸した柔らかい布で拭いて汚れを落としてください。その後、柔らかい乾いた布で水分を拭き取ってください。傷がついている場合は、新しいスキャニングホルダと交換してください。スキャニングホルダにはオプション品として A3 タイプ、A4 タイプが用意されています。
- それでも解決しない場合は、白基準補正を実行してみてください。

? スキャンした画像にムラがある

- 読み取り解像度が低くありませんか。読み取り解像度を高くしてみてください。
- 白基準補正を実行してみてください。白基準補正については、このガイドの第3章または第4章をご覧ください。

こんな症状があるときは ― その2

画像のギザギザが目立つ

- 読み取り解像度が低くありませんか。読み取り解像度を高くしてみてください。
- 画像を拡大していませんか。高い解像度で読み取った画像でも、拡大すると画質が低下します。

原稿の白い部分が白くならない

- 白く見える原稿でも、実際には白さに差があるため、濃度を持った画像として読み込まれることがあります。明るさとコントラストを調整してください。
- モノクロ原稿を[カラー]または[グレースケール]で読み取っていませんか。[白黒]に設定して読み取ってみてください。

印刷されたカラー画像が暗い

- プリンタのカラーに関する設定が適切でない可能性があります。[オートパレット]などの設定を確認してください。

画像の読み取りに時間がかかりすぎる

- 設定されている解像度やプリンタの機種、コンピュータの処理速度などにより、読み取り時間は変化します。プレスキャンを活用すれば読み取り時間を短縮することができます。

こんな症状があるときは ― その3

スキャナカートリッジを BJ カートリッジに交換したのに、印刷ができない

- BJ カートリッジは正しく取り付けられていますか。

通信エラーが発生する

- IS Scan を一度終了した直後に、再起動しませんでしたか。IS Scan を再起動する場合は、終了した後、数秒待ってから再起動してください。
- プリンタの電源が切れているか、またオフラインになっていませんか。

お願い

- *お使いのコンピュータによっては、双方向通信対応のインタフェースケーブルを使っても、うまく動作しないことがあります。この問題が発生した場合には、コンピュータの BIOS の設定を変更することによって、問題を解決できることがあります。BIOS の設定を変更する場合には、お使いのコンピュータのメーカーにお問い合わせください。間違った設定をすると、コンピュータが起動しなくなることがあります。*

こんな症状があるときは － その 4

使いたいボタンやメニューがグレーで表示されていて、使えない

- 画像の読み取り操作は、すでに実行しましたか。画像を読み取った後でないと使用できないボタンやメニューがあります。それ以外にも、状況によって使用できない機能は、グレーで表示されます。

画像の一部が欠ける、または揃わない

- スキャニングホルダや原稿が汚れていませんか。
- 読み取り範囲は正しく指定しましたか。

色に違和感を感じる、または明るすぎたり暗すぎる

- 画面の色数の設定が「High Color」または「True Color」以外の設定になっていませんか。
- カラーマッチングがオフになっていませんか。
- 白基準補正を行ってみてください。

ダイアログボックスに表示される色がおかしい

- 画面の色数の設定が 256 色になっていませんか。IS Scan を他のアプリケーションソフトから使用している場合に起きることがあります。画面の色数の設定を「256 色」から「High Color」または「True Color」に変更してください。また、IS Scan のウィンドウを一度最小化した後、元のサイズに戻すと直る場合があります。

こんな症状があるときは － その5

TWAIN に対応しているアプリケーションソフトから IS Scan が起動できない

- 使用しているアプリケーションソフトが 32 ビット TWAIN（TWAIN_32 バージョン 1.6）に対応していない可能性があります。アプリケーションソフトの製造元にお問い合わせください。

アプリケーションソフトへの転送がうまく実行できない

- 使用しているアプリケーションソフトが対応していない画像タイプや解像度を選択していませんか。アプリケーションソフトによって、特定の画像タイプまたは解像度の画像しか受け付けないものがあります。特に、OCR ソフトウェア（原稿をテキストデータに変換するためのソフトウェア）では、モノクロで、解像度が 300 ～ 400dpi 程度に制限されているものがあります。アプリケーションソフトが対応している画像タイプまたは解像度で読み取った後、転送操作を行ってください。

IS Scan がデフォルトの設定（標準的な初期設定）で起動されない

- IS Scan を、TWAIN 対応ドライバとして他のアプリケーションソフトから使用している場合に起きる現象です。アプリケーションソフトにより、設定された値をアプリケーションソフト側で保持し、起動時に自動的に変更するものがあります。正常な動作です。IS Scan の故障や異常ではありません。

こんな症状があるときは ─ その6

この他の情報について

IS Scan のヘルプにも、さまざまなトラブル解決法が用意されていますのでご活用ください。

- TWAIN ドライバとして IS Scan を起動している場合には、［？］ボタンをクリックすると、ヘルプの画面が表示されます。続いて［目次］ボタンをクリックし、［こんなときどうする？］をクリックしてください。
- IS Scan Plus を起動しているとき、あるいは IS Scan も IS Scan Plus も使っていないときに IS Scan のヘルプを見たい場合には、直接 IS Scan のヘルプファイルを開く必要があります。通常、IS Scan のヘルプファイル「Bjscan2.hlp」は、「C」ドライブの「Program Files」フォルダの中の「Canon」フォルダの「IS Scan」フォルダに入っています。エクスプローラなどを使って、ヘルプファイル「Bjscan2.hlp」を開いた後、［目次］ボタンをクリックし、［こんなときどうする？］をクリックしてください。

どうしても解決しない場合

何らかの原因で、スキャナに必要なファイルが消されたり、壊れていたりする可能性があります。一旦、スキャナ用のソフトウェアをすべて削除した後、スキャナ用ソフトウェアを再インストールしてみてください。ソフトウェアの削除の方法については、このガイドの付録で説明しています。

エラーメッセージが表示されたら

エラーメッセージが表示された場合には、次のように対処してください。

スキャナ用ソフトウェアのインストール中にエラーメッセージが表示された場合

ハードウェアとソフトウェアの動作条件が満たされていない可能性があります。動作条件については、プリンタの説明書の「仕様」およびスキャナのRead me（お読みください）をご覧ください。

IS ScanまたはIS Scan Plusの使用中にエラーメッセージが表示された場合

IS Scanのヘルプに、エラーメッセージに対する解決法が記載されています。

- TWAINドライバとしてIS Scanを起動している場合には、［?］ボタンをクリックすると、ヘルプの画面が表示されます。続いて［目次］ボタンをクリックし、［メッセージ一覧］をクリックしてください。
- IS Scan Plusを起動しているとき、あるいはIS ScanもIS Scan Plusも使っていないときにIS Scanのヘルプを見たい場合には、直接IS Scanのヘルプファイルを開く必要があります。通常、IS Scanのヘルプファイル「Bjscan2.hlp」は、「C」ドライブの「Program Files」フォルダの中の「Canon」フォルダの「IS Scan」フォルダに入っています。エクスプローラなどを使って、ヘルプファイル「Bjscan2.hlp」を開いた後、［目次］ボタンをクリックし、［メッセージ一覧］をクリックしてください。

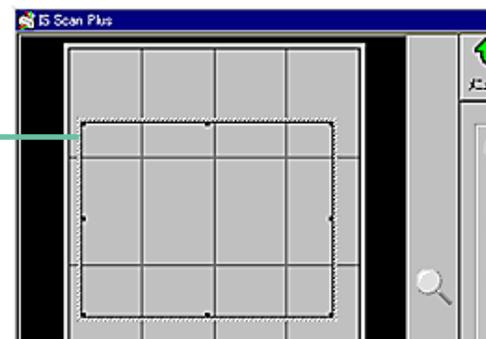
さらに進んだ使いかた − その1

ここでは、さらに IS Scan Plus や IS Scan を使いこなしていただくためのちょっとした応用操作を紹介します。

● プレスキャンすることなく読み取り範囲を指定する

「原稿の一部分だけを、時間をかけずに読み取りたいときは、プレスキャンを活用する」ということは前述しました。
しかし、さらに短時間で原稿の一部分だけを読み取る方法があります。これが、その方法です。
多少、経験とカンが必要となりますが、慣れてしまえば結構便利に使えます。一度お試しください。

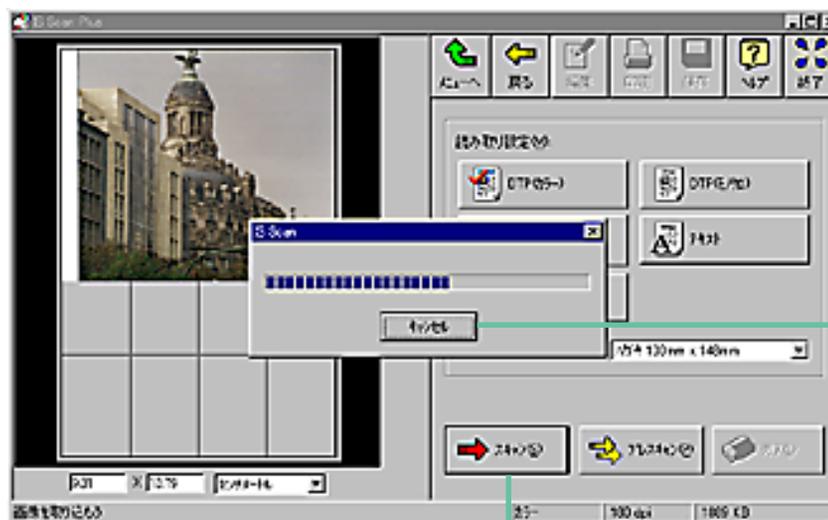
1 いきなり読み取り範囲を指定します。

・プレスキャンしていないわけですから、範囲は目分量で指定することになります。

2 [スキャン] をクリックします。

・指定した範囲だけが読み取られます。

さらに進んだ使いかた ― その2

● 読み取り中にキャンセルする

読み取り実行中、読み取った画像が、画面にだんだんと表示されていきます。「もう保存したい範囲は、読み取り終えているんだから早く終わってくれないかなぁ？」と思ったことはありませんか？
こんなときは［キャンセル］をクリック。それまでに画面に表示されていた部分に関しては、最後まで読み取り終えたときと同じように編集、保存、転送などの操作が可能です。

1 ［スキャン］をクリックして、読み取りを開始します。

2 目的の部分が読み取られたら、［キャンセル］をクリックします。
・読み取りは中断されますが、それまでに読み取られていた部分は、そのまま残ります。

指定した範囲だけをコピーする

「コピーしよう」には、プレスキャン機能がありません。このため、原稿のある範囲だけをコピーしようとしても、なかなかうまくいきません。
こんなときは、次の方法をお使いください。

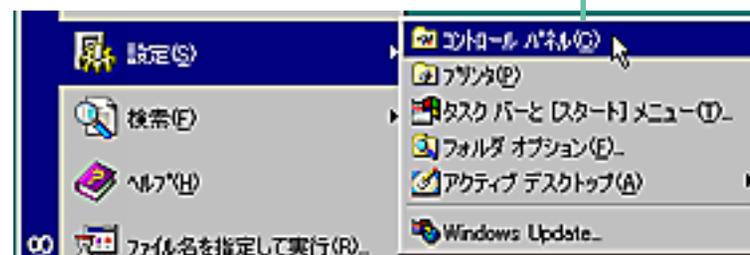
1. コピーの通常の操作をはじめます。
2. スキャナカートリッジをBJカートリッジに交換するメッセージが表示されたら、[キャンセル] をクリックします。
3. コピーしたい範囲を指定します。
4. [再印刷] をクリックすれば印刷がはじまります。

ソフトウェアを削除するとき − その1

スキャナ用ソフトウェアをパソコンのハードディスクから削除する操作です。

お願い

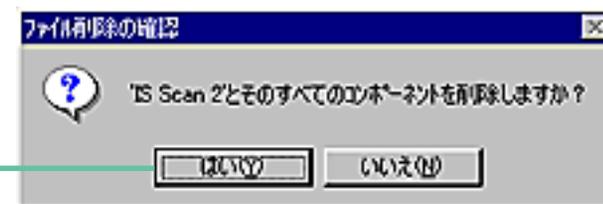
- *スキャナ用ソフトウェアを削除すると、スキャナカートリッジを使った読み取りが一切できなくなります。安易に実行しないようにしてください。*

1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] の [コントロールパネル] を選択します。

2 コントロールパネルの中の［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックします。

3 一覧の中の「IS Scan 2」を選択します。

4 [追加と削除] ボタンをクリックします。

ソフトウェアを削除するとき – その2

5 [はい] ボタンをクリックします。
・ソフトウェアの削除が実行されます。

6 [OK] ボタンをクリックします。

7 手順3の画面に戻ったら、[キャンセル] ボタンをクリックします。
・これで、ソフトウェアの削除は完了です。

メモ

- *削除中、「ファイル○○○は、他のソフトウェアで使っているかもしれません～削除しても良いですか？」といったメッセージが表示されることがあります。このようなファイルは削除しないようにしてください。*
- *スキャナ用ソフトウェアのインストール時に、「セットアップタイプ」の画面で「TWAIN ドライバだけをインストール」を選択した場合、IS Scan だけがインストールされ、IS Scan Plus はインストールされません。あらためて IS Scan Plus をインストールしたい場合は、一旦ここで説明した手順でソフトウェアを削除した後、再度「標準インストール」を選択してインストールを行ってください。*

用語解説 ― その1

BMPファイル（.bmp）

Windowsの標準的な画像ファイル形式です。Windowsのほとんどのアプリケーションソフトが、この形式に対応しています。Windowsでは、一般に「.bmp」という拡張子を付けます。（一部のソフトウェアでは「.DIB」という拡張子を使う場合もあります）

dpi

解像度を表す単位です。dots per inchの略称で、「1インチ（2.54センチ）をいくつのドット（画素）に細分するか」という意味です。例えば、180dpiで原稿をスキャンした場合、1インチ四方が横180ドット×縦180ドット（計約3万ドット）に細分されます。dpiの数値が大きいほどきめの細かい画像となりますが、その分だけ画像ファイルのファイルサイズは大きくなります。

JPEGファイル（.jpg）

ISOの団体「Joint Photographic Experts Group」が提唱した画像フォーマットです。この形式は圧縮率が高いのが特徴です。もともとのデータサイズの1/10～1/50の圧縮が可能です。ただし、この形式の圧縮は非可逆圧縮と呼ばれる圧縮のため、圧縮時に一部のデータをロスします。これは最初の状態には戻らない、つまり「画像が少しだけ劣化する」ということです。人の目の特性をうまく利用しているため、1/10程度の圧縮では、その劣化にはほとんど気づきませんが、何度も「ファイルを開いて加工して保存」という作業を繰り返すと、だんだん劣化が目立つようになってきます。このような特徴を考慮して、画像加工過程はTIFF形式など、劣化のないファイル形式で行い、最終的な納品や保管をJPEG形式で行うというのが一般的です。
Windowsでは、一般に「.jpg」という拡張子を付けます。

OCRソフトウェア

Optical Character Recognitionの略称で、光学的に文字を認識するソフトウェアのことです。画像データ上の文字の形を認識し、コンピュータで編集可能なテキストデータに変換するソフトウェアです。

用語解説 ― その 2

TIFF ファイル（.tif）

Tagged Image File Format の略称です。さまざまなコンピュータ上、アプリケーションソフト上で、比較的互換性の高い画像のファイル形式です。ただし、ファイルの先頭にタグと呼ばれるデータを付加することでファイル形式を拡張できる特徴を持つため、場合によっては互換性のないデータも存在します。また、アプリケーションソフトによっては、LZW などの可逆圧縮（画像劣化の一切ない圧縮）を使用することもできます。しかし、他のアプリケーションソフトとの互換性を重視するのであれば、圧縮しない方が無難です。
Windows では、一般に「.tif」という拡張子を付けます。

TWAIN

TWAIN は、画像を扱うアプリケーションソフトと、スキャナなどの画像入力機器との間でデータをやりとりするための規格です。これに準拠したドライバのことを TWAIN ドライバと呼びます。また、TWAIN ドライバを呼び出して画像入力ができるアプリケーションソフトのことを、TWAIN 対応アプリケーションソフトと呼びます。

解像度

画像ファイルのドット（画素）の密度のことで、画像の細かさ／粗さを示します。

ドット（画素）

画像は、色の付いた小さな点を、縦横にぎっしり敷き詰めることで表現されます。このひとつの点のことをドットまたは画素と呼びます。

索引 − その1（クリックすると、そのページにジャンプします）

英数時・記号

ア行

カ行

サ行

索引 ― その２（クリックすると、そのページにジャンプします）